

# ベースボールカフェ

NO.11

2019年8月25日

三好ベースボールアカデミー

三好泰宏

TEL・FAX 011-897-3535

携帯 090-59892587

E-mail: [my.baseball.1977@jcom.zaq.ne.jp](mailto:my.baseball.1977@jcom.zaq.ne.jp)

## ご挨拶

甲子園が終わりました。翌日、北海道は雨でした。テレビは履正社の凱旋を報道していました。スポーツ新聞も大きな記事でした。星陵のエース奥川君は破れました。残念に思っているファンは多いでしょう。

野球は投手、奥川君は注目を集めました。期待通りのピッチングは準決勝まで、大事な決勝では相手打線に研究されて本来の力を出し切れず涙を吞みました。

## 投手とは

投手は、チームの大黒柱です。投手は勝利の9割を占めているように思います。と言っても過言ではないでしょう。

いくら打線が強力でも守備が完璧でも相手を押さえる投手が力を発揮しなければ勝てません。

決勝での奥川君の表情には、これまでにない何か不安を感じるような笑顔が垣間見られました。これまでと違うのは疲れと不安があったからだと思います。

それを象徴するのは、3回表、先取してもらい2死からの2連続与四球は疲れを感じました。粘られて、得意の150キロのストレートを見送られ、その後の逆転ホームランになった投球は、甘いスライダー、相手が狙っていた球でした。

8回表、同点にしてもらったあと、2塁打されました。変え時ではなかったかと思えます。

自分で抑え込まなければと言う責任感は精神的疲労を増大します。気持ちだけでは解決できません。変化球が多かったわけですが、ストレートの威力があって効果がある球種です、捕手のリードも関係しますが、監督の采配も気になるところです。

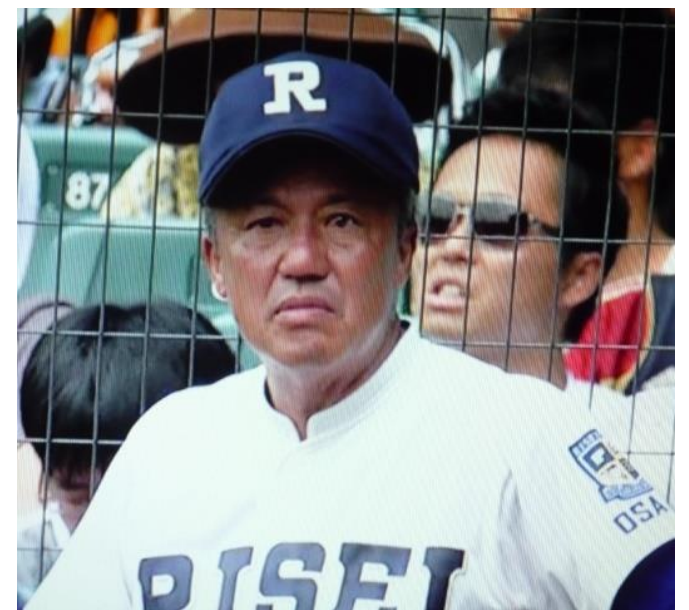


一方の履正社エース・清水君は行ける。ところまで頑張って後続に託すと言ったリラックスした全力投球でした。

安打も四球も与えましたが、守りのリズムを崩すこともなく責任を果たした。

彼の表情から笑顔も見られましたが、マイペースでチームの一員として責任を果たすタイプの投手に見えました。

どの試合も力投が目につきました。同点にされた後の交代は監督の采配でしたが決断は見事でした。



## 監督とは

履正社の岡田監督は、苦節33年、甲子園で優勝するという目標を持った監督さんですがユニークな指導哲学を持った監督さんでした。

日体大出身、保健体育の先生は私の後輩になりますが共通した指導を垣間見ました。

自主性、練習時間、体力トレーニング、パワーバッティング、選手選出、など体育の先生らしい指導スタイルでした。

甲子園の監督采配は勝利に関係します。かつて1死でも2塁に送るバントを徹底した箕島の監督さん。1死3塁ではスクイズの広島商業の監督さんは名将と讃えられていた時代もありましたが、いまは変わりました。

野球も他のスポーツと同じように、スポーツ性に富んだパワーベースボールに変わりました。姑息なスクイズで勝利するような野球は選手も観衆も好むものではないからです。

最後に、そんな中、課題もあります。投手の投球制限です。これからの監督はどのように対応するか大きな課題です。高野連の日程だけで解決できる問題ではありません。早急に解決して、大船渡高校の佐々木投手のような悲劇が起きないようにしてあげなければなりません。